

1. 景気動向

前回調査時と同様に、依然として全業種にわたって業況は「悪化」と回答の割合が増加している。調査期間中、大型倒産はなかったものの中堅の製造業、小売業の整理、廃業が相次ぎ、加茂市内の景気に明るい兆しは見られない状況である。

	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	10月～12月	1月～3月	10月～12月	1月～3月	10月～12月	1月～3月	10月～12月	1月～3月	10月～12月	1月～3月
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高	 65	 55	 52	 52	 88	 50	 51	 62	 45	 45
採算	 65	 75	 51	 54	 75	 25	 45	 60	 50	 55
資金繰り	 55	 50	 41	 49	 50	 25	 43	 53	 25	 35
業況	 65	 55	 43	 46	 100	 88	 53	 62	 50	 55
経営上の当面する問題点	1位	民間需要の停滞		製品(加工)単価の低下・上昇難		需要の停滞		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応
	2位	請負単価の低下・上昇難		需要の停滞		販売単価の低下・上昇難		購買力の他地域への流出		利用料金の低下・上昇難
	3位	官公需要の停滞		事業資金の借入難		大企業の進出による競争の激化		大型店・中型店の進出による競争の激化		人件費以外の経費の増加
業種別コメント	「採算」「資金繰り」では不変にポイントがシフトし好転している企業が1社もなかった。民間・公共工事が減少している中、取引条件は悪化し、受注できても採算割れをおこすところもあり、大変厳しい状況下にある。		「好転」がわずかながら増加したものの、来期の見通しは依然悪化傾向である。また、問題点として、事業資金の借入難、金利負担の増加があげられるなど、厳しい景気状況である。新技術導入等で好転している企業も見受けられる。		今回調査では、5業種の中で一番厳しい結果となった。需要が停滞している中、海外製品との競争激化と単価下落で来期の見通しも暗い。流通業にも大きな変化が起きているのを見られる。		好転との回答はごく少数で、売上、利益、資金繰りが悪化。来期はさらに悪化の見通しが多い。このよつな状況から廃業する店も出てくる。		好転のポイントの増加はみられず、悪化と不変が多い。忘年会シーズンは、客数の減少、客単価の下落などで厳しい状況は変わらず、来期の見通しも暗い。デフレ経済の影響もあると思われる。	

*表中の天気図はD・Iを以下のように分類したものです。

				
とくに好調(50 DI)	好調(25 DI<50)	まあまあ(0 DI<25)	不振(25 DI<0)	きわめて不振(DI<25)

当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。